

第六十四回

瀬戸市文芸発表会

特選作品

俳句

【中村 雅樹 先生選】

《一般の部》

つつじ燃ゆベンチ二人の声高し  
一心に乳吸う赤子桃の花  
水撒きのホース頑固に戻る癖

瀬戸市原山台  
瀬戸市川端町  
瀬戸市五位塚町

太田 友子  
北島 璋子  
古川 祐次

《小中学生の部》

ミニトマト熟して甘い酸っぱいの

品野台小学校三年

新渡戸 峻

【田口 風子 先生選】

《一般の部》

甚平を定年の子へ贈りけり  
さりげなく話題を変へて心太  
青き踏む臨月の娘のスニーカー

愛知県尾張旭市  
瀬戸市本郷町  
瀬戸市東山町

大西 喜子  
矢野 さよ子  
山本 光江

《小中学生の部》

鬼ごっこ終わる瞬間夏が来る

水無瀬中学校三年

畠山 真幸

俳句

【武藤 紀子 先生選】

《一般の部》

カーテンは水玉模様明易き  
帰省の子ふる里の水一気飲み  
ザンビアへ発つ君の荷に新茶

愛知県長久手市  
瀬戸市川端町  
瀬戸市東横山町  
清水 忍  
加納 碩恵  
北島 璋子

《小中学生の部》

金平糖こぼし机に天の川

水無瀬中学校三年  
塚本 みゆう

【佐藤 美恵子 先生選】

《一般の部》

火入れ待つ窯場に白ふ夜の新樹  
五六本摘みし土筆を煮て貫ふ  
アトリエに民次自画像著莪の花

瀬戸市東本地町  
瀬戸市中水野町  
瀬戸市菽山台  
稲垣 松鯉  
加藤 進  
溝口 洋子

《小中学生の部》

天の川へやの明かりを消して見る

幡山西小学校五年  
柴田 真実

短歌

【大塚 寅彦 先生選】

《一般の部》

ころころと笑う少女に雨あがる明日からきつと向日葵の夏  
弾丸の形に立てる忠霊塔そつと手触れば石の冷たさ  
陶片に見つけし父の筆の跡菽の花咲く窯場に偲ぶ

瀬戸市五位塚町 青砥 和子  
瀬戸市ききよう台 加藤 美佐枝  
瀬戸市穴田町 深見 美好

《小中学生の部》

まっ白なノートが黒くなったとき私もノートもなんだかほほえむ

私立聖霊中学校二年 畑田 和子

【近田 順子 先生選】

《一般の部》

数知れぬ戦中戦後の謎を秘め陶の梵鐘すえしずまりかえる  
僅かなる背反の翳認め合う四十五年を共に過ごせば  
国会の論議はげしき日は暮れて黒く渦巻くターナーの雲

瀬戸市ききよう台 加藤 美佐枝  
愛知県豊田市 蟹 尚行  
名古屋市天白区 連 豊

《小中学生の部》

完へきを求めすぎたらいつの日か失っちゃうよねほんとのわたし

南山中学校一年 鈴木 彩美

【松代 天鬼 先生選】

《一般の部》

愚痴言わぬ人が大きく見えてくる  
墓参り風の姿で父は待つ  
陶工が土の命と対話する

瀬戸市春雨町  
埼玉県さいたま市  
愛知県尾張旭市

加藤 千代美  
岸 保宏  
美 子

《小中学生の部》

おばあちゃん長生きしてねがんばって

效範小学校二年

才木 彩花

【浅野 滋子 先生選】

《一般の部》

晩学の辞書に見つけた広い海  
非常口までも塞いだ自己主張  
年輪を重ねて人は人になる

大阪府八尾市  
静岡県湖西市  
瀬戸市上水野町

穂山 常男  
石田 珠柳  
加藤 錦

《小中学生の部》

サッカーでいっぱい転ぶきずだらけ

效範小学校四年

岩田 浩暉

詩

【若山 紀子 先生選】

《一般の部》

もみじの色

瀬戸市上品野町

藤 天如

夕方、交差点の信号が赤に変わった。  
そのとき、晩夏の風を打ち破って、  
三人の若者がかけこんできて信号を渡った。  
若者たちの影も走って渡っていった。

三人は渡り切って、影たちは少し遅れた。  
その瞬間、影たちは自動車に轢かれた。

胸をつぶされた影、

腰をつぶされた影、

太腿をつぶされた影。

若者たちは歩道で荒い息を整えていた。

もみじの葉が舞い落ちてきて、

胸の影、腰の影、太腿の影に降り積った。

そして、つぶされた部分を赤く赤く染めあげた。

たんぽぽ

瀬戸市松原町

深見 和里

青空の下僕は生れた

風が飛で来ると僕の体はしずかに揺る

仲間とともにふわふわと

蝉の声、桜の花弁がはなびら落る音、

虫取りあみをもって走り回る子ども声

気づいたら僕の仲間も体が白くなっていた

僕も体が軽くなってきた

空へ飛ばされる

仲間とともにふわふわと

《小中学生の部》

猫達とこたつ

水無瀬中学校二年

田村 小雪

猫達はこたつが大好き  
だからこたつは猫達に好かれてる  
こたつはちよつと猫達が嫌い  
中に入りこまれるのが嫌い  
中に入りこまれるとちよつと  
くすぐりたい  
こたつはくすぐりが嫌い  
それでも猫達はこたつが  
大好きだ